

さすてな京都（京都市南部クリーンセンター第二工場）見学参考資料
施設全景



手前の円筒横型の装置 2 基がバイオガス化施設のメタン発酵槽、縦型タンクがガスホルダ。
建屋は左から環境学習施設「さすてな京都」及び管理事務所、選別資源化施設、収集車搬入
路（高架）に続く収集車用プラットホーム（3 F）、焼却施設。

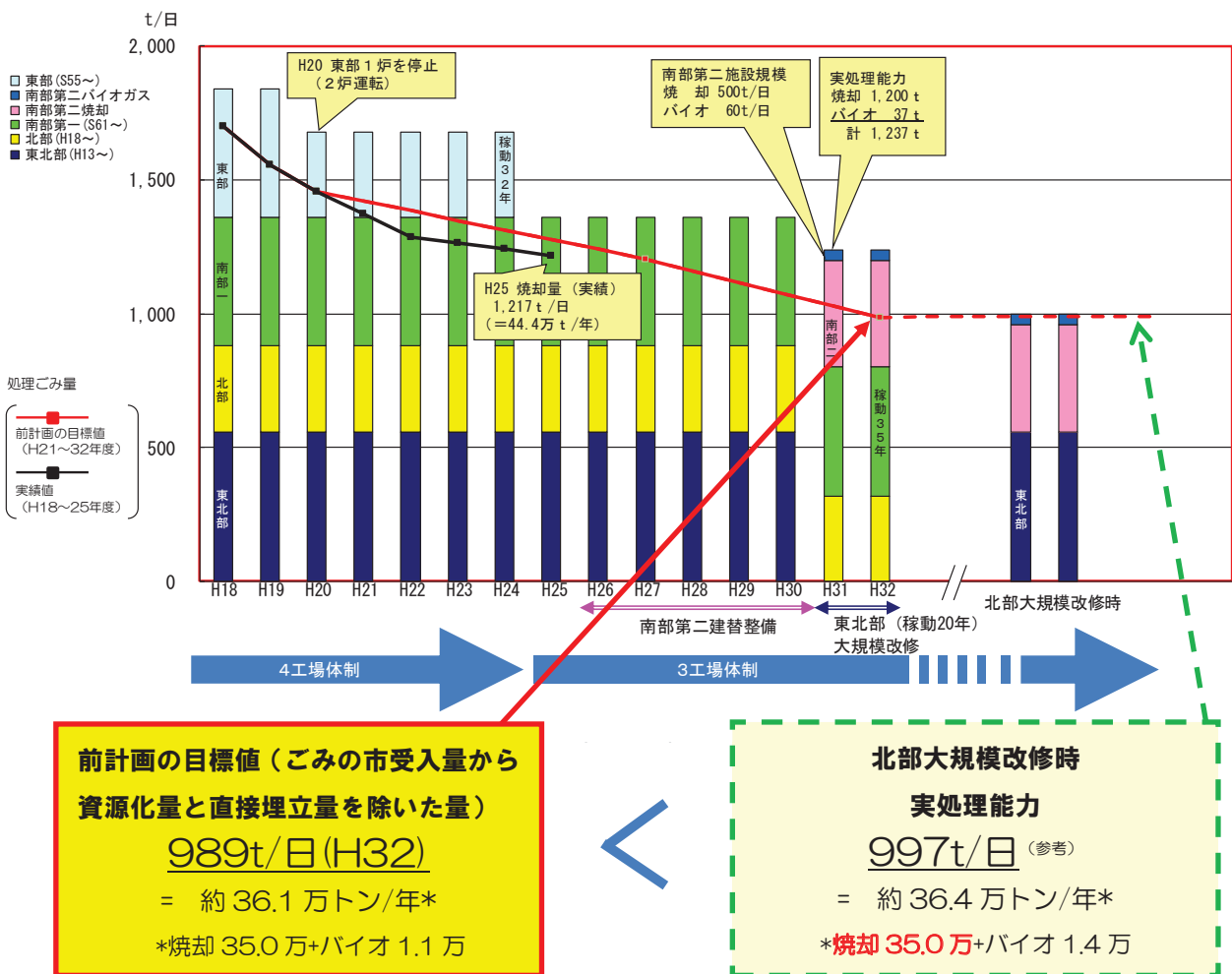
案内図



1. 2 クリーンセンター及び最終処分場の将来見通し

ごみの減量により、ピーク時には5工場あったクリーンセンター（清掃工場）を3工場まで縮小することができ、環境負荷の低減と、年間106億円もの大幅なコスト削減を実現させましたが、今なお、ごみ処理には261億円もの巨額の費用を要しています。また、クリーンセンターをできるだけ長く使っていくためには、定期的なメンテナンスと、約20年間使用した後に、約2年間にもわたる大規模な改修が必要です。その際には、市全体のごみを2工場で処理しなければならず、その処理できるごみ量は、年間39万トン（ごみ焼却量35万トン）となることから、ピーク時からの「ごみ半減」39万トンを必ず成し遂げなければなりません。

図 前計画における焼却等ごみ量（日量）の目標値及び実績値とクリーンセンターの実処理能力



また、京都市の唯一の最終処分場である東部山間埋立処分地は、今後の埋立期間を56年と見込んでいますが、できるだけ長く活用していくためにも、まずは可能な限りごみの減量を図る必要があります。

出典：新・京都市ごみ半減プランー京都市循環型社会推進基本計画2015ー2020

バイオガス化から発電の流れ

バイオガス化施設では、「前処理設備」で燃やすごみの中から選別した生ごみ等から、「メタン発酵槽」で微生物の力によりメタンを主成分とするバイオガスを発生させ、エンジンを動かす燃料として使用し、発電機を回して電気を作ります。



なぜバイオガス化するの？

生ごみなどのバイオマス（濡れた紙ごみや剪定枝などを含む。）をバイオガス化することにより、①焼却ごみの減量を図ることができる（焼却施設の規模の縮小化）、②残った焼却ごみの発熱量が上がり、焼却施設での熱回収率（発電量）が向上する、③発生したバイオガスで発電ができる、などの多くのメリットがあります。

➡ 「ごみの持つエネルギー回収の最大化」と「温室効果ガスの削減」を図ることができます。

